

## 【第5期】第5回松本市子どもにやさしいまちづくり委員会会議録

### 1 日時

令和6年7月18日（木） 午後2時00分～午後3時20分

### 2 会場

松本市大手公民館 大会議室

### 3 出席者

#### (1) 委員

荒牧会長（テレビ会議）、森本副会長、山口委員（テレビ会議）、石川委員、輿委員（テレビ会議）、小松委員、下郡委員、赤井委員、矢野委員、柳田委員、永塚委員（15名中11名の出席があり、過半数を満たすため、松本市子どもの権利に関する条例施行規則第16条第2項に基づき、会議成立）

#### (2) 事務局

こども部長、こども育成課長、こども政策担当係長、児童担当係長、子どもの権利相談室長、こども政策担当職員

#### (3) 関係者

株式会社サーベイリサーチセンター

### 4 あいさつ（会長）

### 5 会議事項

#### (1) 令和6年度子どもの権利アンケートの結果について

##### 【会長】

事務局、会議事項(1)の説明をお願いします。

##### 【事務局・関係者】

《配布資料に基づき説明》

##### 【会長】

委員の皆さん、質問や意見はございますか。

##### 【委員】

I 調査概要の5の回答状況について、協力学校数について確認させてください。松本市内には高校が13校ありますが、そのうち6校から回答があったということでしょうか。対象者数は、6校の生徒の人数ということでしょうか。

### 【事務局】

協力学校数は、アンケートに協力いただいた学校数です。高校では13校のうち6校でアンケート用紙を配布いただいたということでございます。その6校の生徒数の合計が1,305人です。

なお、小学校は全部で31校、そのうち配布いただいたのは29校、中学校は全部で24校、そのうち配布いただいたのは23校。対象者数は、それぞれアンケート用紙を配布いただいた学校の児童、生徒数の合計です。

### 【委員】

先程、プラスマイナス何%の誤差であるという説明がありましたが、例えば松本市内の高校13校の生徒数に対して268人という数字は相当小さくなっていくわけですが、それでもパーセンテージとしては統計上問題ないのでしょうか？

### 【サーベイリサーチセンター】

統計的には、回答数によりますので268人あればプラスマイナス6.0%の中に収まるということになります。信頼度をもっと高めたい、あるいは誤差をプラスマイナス3%にしたいということであれば少し少ないということになります。あくまでも最大の標本の誤差、イエス、ノーの2択で一番誤差が多い時でもプラスマイナス6%、仮にイエス、ノーが50%の回答であった場合でも高校生の場合44~56に入るという形です。

仮にイエスが9割で、ノーが1割しかない場合であれば、この268人の回答の信憑性はかなり高いといえます。

### 【会長】

よろしいでしょうか。

こころの鈴の認知度が上昇していて、条例の認知度が低いということは、こころの鈴は周知がされていて、条例の方は周知が足りないということでしょうか？

### 【事務局】

こころの鈴では、年4回こころの鈴通信を発行しています。通信は、A4用紙の表裏で市内の小、中、高校へ配布しているほか、携帯用のカードを年度当初に配布するなどの周知を行っています。

一方、条例の周知は、11月に「まつもと子どもの権利ウィーク」を実施して集中的に周知を行っています。また、権利ウィーク前の10月頃に子どもの権利の学習パンフレットを小、中学校に配布していますが、高校には学習パンフレットはありません。

以上が条例の周知の主な取り組みとなりますが、まだまだ周知が弱いと思っています。

### 【会長】

他によろしいですか。

自由記述の方は、どうなっていますか？

#### 【事務局】

自由記述の集計ですが、現在集計中で 8 月上旬頃の完了を目途にしています。冊子にまとめまして委員に皆さんに送付する予定です。

#### 【会長】

他によろしいでしょうか。

#### 【委員】

生徒の自己肯定感と他の質問項目とのクロス集計のご報告をいただきましたが、生徒の自己肯定感は、それぞれの生徒の状況の多様化が進んでいる中で、生徒が大変答えにくい質問項目かなと私は思いました。

これをクロス集計することによって今後何に活かしていくのか、また、何に活かせるのか。クロス集計することは、自己肯定感を上げたいという思いがみえるが、自己肯定感を上げていくというのは、多様化が進む中で、個々の生徒に対応している教育現場は非常に苦労しています。どのようなお考えでクロス集計されているのか伺いたい。

#### 【事務局】

例えば、自己肯定感が高い子どもは、自分の考え、思っていることを聞いてもらっていると回答している割合が高くなっており、子どもの自己肯定感を上げるためには、子どもの意見を聞く環境の整備が必要だと判断する際に、クロス集計が活かされていると考えています。

#### 【委員】

今、話されたことは本当にそうだと思うのですが、まさに教育現場では、生徒たちに寄り添って一人一人の意見を聞いて、自己肯定感を向上させようと取り組んでおりまして、ある意味それは当たり前かなという気持ちがあります。

アンケートを取る際には、どのような効果が上がってくるのかが見えないと、このようなデリケートなアンケートを実施するには躊躇するのかなと感じました。

生徒の内面を聞く部分が無ければ、市政に役立つのならばアンケートにも協力したいと思っていましたが、生徒の内面を聞く、そのことと他の質問項目を関連付けていくとなった場合に生徒の心の負担という面で、長野県全体でも生徒の内面を聞くアンケートの取り方に議論が起こっています。

各校でも生徒の内面を聞くのは、生徒にフィードバックするためのものであって、集計を取ったりすることには使わないというのが一般化しています。

今度アンケートを取られる時は、教育現場と密な連携を取り合っていたいただいた方がいいのかなと思います。参考としてお聞きいただければと思います。

(2) 令和6年度子どもの権利アンケートの結果について

【会長】

事務局、会議事項(2)の説明をお願いします。

【事務局】

《配布資料に基づき説明》

【会長】

委員の皆さん、質問、意見はありますか？

【委員】

子どもの意見の聴取について、児童館、児童センターで実施されるということですが、放課後児童クラブのみの実施場所も含まれていると考えていいのでしょうか？

【事務局】

放課後児童クラブのみの実施場所も含まれます。

【委員】

放課後児童クラブを実施していない一般利用の児童館、児童センターは、いかがでしょうか。

【事務局】

そちらも対象となります。全ての児童館、児童センター、放課後児童クラブに依頼をしています。

【委員】

希望調査を実施されて、希望しているところだけということですか。

【事務局】

希望だけでは実施場所が伸び悩む可能性があることから、希望を把握した上で、少ない場合には、こちらから働きかけを行っていきたいと考えています。

【委員】

すべての居場所で実施していただけるといいと思います。

【会長】

他に、どうでしょうか。

1の(3)について、LGBTの関係を加えたらどうでしょうか。

【事務局】

市の方で把握しているものがあるか確認を行い、データがあれば基礎資料として反映していく方向で進めていきたいと思えます。

【会長】

他に、どうでしょうか。

2の(2)に特別支援学校を加えたらどうでしょうか。

【事務局】

特別支援学校からの意見聴取は、今のところ考えていません。

【会長】

委員のみなさんどうですか。アンケートの結果を見ても入れるべきだと思うのですが。

【事務局】

アンケートを依頼した際に、先生方から負担があるとの意見をいただいているので、難しい面がありますが、各学校に確認して進めていきたいと思えます。

【委員】

1の(3)の子どもたちの現状について、ヤングケラーの子どもの事については、どちらに含まれますか。貧困や不登校にも関わってくるかなと思えますが。

【事務局】

ヤングケアラーの関係は、こども福祉課が担当していますので、データがあれば基礎資料として反映していく方向で進めていきたいと思えます。

【委員】

1の(3)の不登校について、おそらくそれぞれの学校現場でも話題になってきていますが、不登校のみではなく、学校に足が向かない子が増えているのが現状です。

学校としても対策を考えて進めているところですが、2の(1)の子どもの居場所づくりの促進にも関わってくるんじゃないかと思えます。

居場所づくりは、はぐルッポとかの関係もあると思えますが、どんなことをしていけばいいのか案は出てきませんが、不登校の子どもたち、学校に足が向かない子どもたちの居場所づくりについても施策を検討していただければと思えます。

【会長】

事務局どうでしょうか？

【事務局】

検討してまいります

【会長】

他にどうですか。

無ければ、この内容で進めていくということによろしいですか。

事務局は、この内容で進めてください。

それでは、事務局にお返しします。

【事務局】

荒牧会長、議事の進行ありがとうございました。また委員の皆様、長時間にわたりご審議ありがとうございました。次の委員会は10月24日を予定しております。詳細につきましては、改めて皆様にご連絡いたします。

それでは、以上をもちまして、第5回松本市子どもにやさしいまちづくり委員会を閉会いたします。大変お疲れ様でした。